

カンボジアの博物館から平和発信 平和教育普及支援プロジェクトがスタート

～沖縄のNPOと平和祈念資料館がトゥールスレン博物館への支援を再開、県内での公開イベントも開催予定～

沖縄県平和祈念資料館と沖縄県立博物館・美術館は、カンボジア国立トゥールスレン虐殺博物館[※]に対し、2009年から2015年までの6年間、JICA草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」プロジェクトを実施し、博物館の運営に必要なさまざまな知識・技術を伝え、カンボジアの若手学芸員の人材育成に大きく貢献しました。

今回のプロジェクトではトゥールスレン虐殺博物館の教育普及チームに対し「平和教育」の手法を伝えるため、1年間の平和教育普及プロジェクトをNPO法人沖縄平和協力センターと沖縄県平和祈念資料館が協力して実施することが決定しました。

また今回は、新たな試みとして、沖縄からカンボジアへの人材育成支援だけではなく、沖縄県の高校教諭1名をカンボジアへ派遣し、カンボジアの内戦の歴史や平和教育に関する取り組み・課題等について学んでもらい、学校現場での平和教育の授業を実践していただく予定です。

◇活動計画概要（予定）◇

2016年8月5日～13日 第1回 専門家派遣（専門家と高校教諭がカンボジアへ渡航）

2016年9月11日～24日 沖縄での研修（トゥールスレン虐殺博物館職員2名）

2017年3月 第2回 専門家派遣

2017年6月 沖縄県内での公開イベント開催

※予定が変更される可能性がありますので、下記までお問い合わせください。

※トゥールスレン虐殺博物館（Tuol Sleng Genocide Museum）

S21とも呼ばれる。元々はリセ（学校）の校舎であったが、ポルポト政権時代に政治犯の収容所として使用され、多くの人々が虐殺された建物を博物館として残したものの。収蔵されている自白書はユネスコの世界記憶遺産に登録されている。カンボジアの首都プノンペンにあり、世界から訪れる観光客は年々増加しており、現在では年間約30万人ともいわれる。

2009年より沖縄の学芸員らが展示や資料保存方法などについて技術移転を実施してきた。



◇過去の取り組みの紹介写真◇



前回のプロジェクトで作成した
カンボジアの学生向けワークノート



カンボジアの学芸員による
沖縄の中学生への平和講和の様子

【照会先】

- ・ JICA沖縄国際センター 市民参加協力課
担当：大山 Tel 098-876-6000
- ・ NPO 法人 沖縄平和協力センター
担当：仲泊 Tel 098-866-4635
- ・ 沖縄県平和祈念資料館
担当：古謝 Tel 098-997-3844